

生方さん「の歌の幻想

信時潔

生方さんの歌が、時々私の老いた心に投影し屈曲し、残像と余響をおこす。その火花は或は短く、或は長く、時として蒼い鋼鉄ゼンマイの響を発し、またしじまの歌の如く消え入る。

たちまち荒海に浮ぶ菜の花の島

色さまざまにならぶ薬物の瓶、静な科学博

物館の鉱物室、暗灰な原鉱の微なひらめき。

翼長き南方蝶類、異質桜貝、トゲある花茎

の曲線、古代埃及の涙壺。

桐箱入りの精製雲丹、枕の草紙の神経図、

絹糸染色見本の束、穂先鋭き毛筆。

ボッチチェリが描く春の女神の足元の草花、

ビュッフェの卓上風景、そして黒い牝豹の瞳。

外科用具のガラス棚、煤光りした旧家の

柱。若き女将の着付け、緒の固い草履、京舞の裾さばき、杜鵑、夜鴉、こがらし、

たちまち窓に乱れ入るショパンの前奏曲、

フリートの高音、ソルヂーをかけたヴィオロンのむせび、ラヴェルの小曲かと思へばい

つのまにか更に鋭い異端の和音。

おやおや巫女の髪の毛、紺地金泥猫の胎蔵界曼荼羅、密教和讃。

顕微鏡裡のかびの花、助った、きこえる

山川の響、山鳩のつがひ、桐の花の匂ひ、――

なごむ、また見つめる、きしむ、ひらめく、

落下千丈、――晴れた浜辺を三々五々の

女性の群。

やがて夕映の細雲――

ここらで、

私の乱どり、フィルムを切ろう。

「生方たつゑ (一九〇五―二〇〇〇)

歌人。『浅紅』編集発行人

底本『浅紅』第一巻第六号

(昭和三十八年七月号)

「信時潔研究ガイド」

<http://www.nobutoki.sakuraweb.com/>